

☆放課後子ども教室☆

新しい一年が始まりました。今年も地域の資源（人、産業、文化、自然など）を生かした子どもの体験活動を通じ、参加する全ての人が「楽しい！面白い！」と思える放課後子ども教室を目指してまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

子どもたちの冬休み期間中、平日の活動はお休みとなっていましたが、昨年の12月26日（土）27日（日）の2日間、冬休み特別教室を開催しました。毎年、冬休みの活動は豊沢地区にある環境保全林で森遊びのプログラムを行っています。今年も20名の子どもたちが参加し、森の探検、秘密基地づくり、たき火あそび、ターザンロープ、生き物の痕跡探し、木工体験などの遊びを楽しみました。森の遊び場をつくるため、森の探検に出かけると、そこは子どもたちにとって宝の山。歩き始めてすぐに木の枝でチャンバラが始まり、倒木が素敵なベンチとなりました。ヤマブドウのツルは丈夫で楽しいロープのブランコに変身します。「基地をつくって、そこでおやつを食べよう！」と約束していた子どもたちは、ちょうど良さそうな物件を見つけ、そこに葉っぱのついた木の枝などを足していきました。見事に完成した秘密基地。そこで食べたおやつの味は格別だったことでしょう。暖をとるためにおこしたたき火も、学びの多い遊びのひとつです。ぬれた枝は燃えにくく、乾いた枝は燃えやすい。雪の中にあっても乾いている小枝をどう見分けるか、子どもたちは少しのヒントから答えを掴みとっていきます。雪の上に並ぶ動物の足跡や、エゾシカがかじった木の芽、倒木をひっくり返すと「虫がいた！」と森に暮らす生き物たちの痕跡も探しに行きました。野生の動物はペットとは違い、その姿を簡単には見つけることはできません。しかし、痕跡を見つけて「見えないけれどもいる」ということを子どもたちも感じとっていたように思います。木工ではシカの飾り物づくりにチャレンジしました。材料は環境保全林で間伐した白樺です。ノコギリや電動ドリルなどを使い、個性豊かな作品をつくり上げていました。

2日間の活動に際し、環境保全林の利活用を進めている森むすびの会の皆さん、地域おこし協力隊・林業支援員として活動されている方々、町内外のボランティアスタッフの皆さんにご協力をいただきました。楽しいことばかりではなく、一歩間違えれば危険も伴うのが自然体験活動です。安心・安全への配慮はもちろん、なおかつ子どもたちが自分の身体能力を考えながら判断し、成長できる場面をつくり出していただいた皆さんに、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。今後もこうしたプログラムを継続していけるよう、ネットワークを広げていきたいと思います。

